

製品名: PLC γ 1 (リン酸化 Tyr771) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05285**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	150kDa

抗原情報

遺伝子名	PLCG1 PLCG1; PLC1; 1-phosphatidylinositol 4; 5-bisphosphate phosphodiesterase gamma-1; PLC-
別名	148; Phosphoinositide phospholipase C-gamma-1; Phospholipase C-II; PLC-II; Phospholipase C-gamma-1; PLC-gamma-1
遺伝子 ID	5335.0
SwissProt ID	P19174
免疫原	抗血清は、ヒト PLCG1 の Tyr771 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 736-785

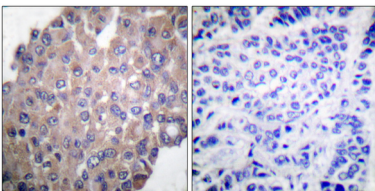
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸からイノシトール 1,4,5-トリスリン酸とジアシルグリセロールの生成を触媒します。この反応はカルシウムを補因子として利用し、受容体型チロシンキナーゼ活性化因子の細胞内伝達において重要な役割を果たします。例えば、SRC によって活性化されると、このタンパク質は Ras グアニンヌクレオチド交換因子 RasGRP1 をゴルジ体へ移行させ、そこで Ras を活性化します。また、このタンパク質はヘパリン結合成長因子 1 (酸性線維芽細胞増殖因子) 活性化チロシンキナーゼの主要基質であることも示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見出されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール 4,5-ビスリン酸 + H(2)O = 1D-ミオイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 + ジアシルグリセロール、補因子: カルシウム、ドメイン: SH3 ドメインは CLNK との相互作用を媒介します (類似性による)。 SH3 ドメインは RALGPS1 との相互作用も媒介します。機能: PLC- γ は、ヘパリン結合成長因子 1 (酸性線維芽細胞増殖因子) 活性化チロシンキナーゼの主な基質です。 PTM: PLC- γ -1 および PLC- γ -2 の受容体媒介活性化には、さまざまな成長因子受容体および免疫系受容体のライゲーションに応答したチロシンキナーゼによるリン酸化が関与しています。 PTM: 活性化 T 細胞で CBLB によってユビキチン化されます。 類似性: 1 つの C2 ドメインを含みます。 類似性: 1 つの EF ハンドドメインを含みます。 類似性: 1 つの PH ドメインを含みます。 類似性: 1 つの PI-PLC X ボックスドメインを含みます。 類似性: 1 つの PI-PLC Y ボックスドメインを含みます。 類似性: 1 つの SH3 ドメインを含みます。 類似性: 2 つの PH ドメイン。 類似性: 2 つの SH2 ドメインを含みます。 類似性: 3 つの PH ドメインを含みます。 サブユニット: SH3 ドメインを介して AGAP2 と相互作用します (類似性による)。 TCR が活性化されるとリン酸化 LAT と相互作用します。 SH3 ドメインを介して TNK1 の Pro リッチ ドメインと相互作用します。 B 細胞抗原受容体依存的に BLNK、VAV1、GRB2、および NCK1 と会合します。 活性化 T 細胞の CBLB と相互作用し、リン酸化を阻害します。 SHB と相互作用します。 SH3 ドメインを介して KHDRBS1/SAM68 の Arg/Gly に富んだ隣接する Pro リッチ ドメインと相互作用します。 この相互作用は、KHDRBS1/SAM68 のアルギニン メチル化によって選択的に制御されます。 INPP5D/SHIP1 および CLNK と相互作用します (類似性による)。 RALGPS1 と相互作用します。 HEV ORF3 タンパク質と (SH3 ドメインを介して) 相互作用します。

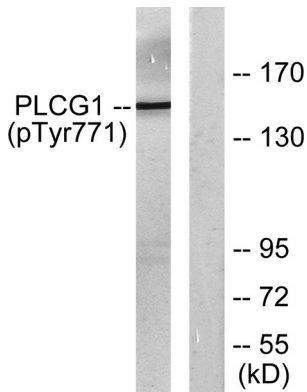
研究分野

イノシトールリン酸代謝、ErbB_HER、カルシウム、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達システム、VEGF、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性、T 細胞受容体、Fc イプシロン RI、Fc ガンマ R を介した貪食作用、白血球経内皮遊走、神経栄養因子、コレラ菌感染症、ヘリコバクターピロリ感染症における上皮細胞シグナル伝達、癌の経路、神経膠腫、非小細胞肺癌。

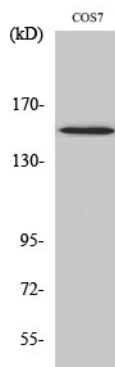
画像データ



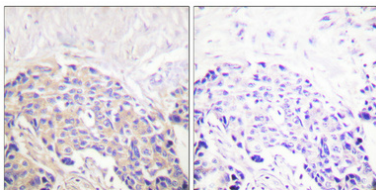
PLCG1 (リン酸化 Tyr771) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



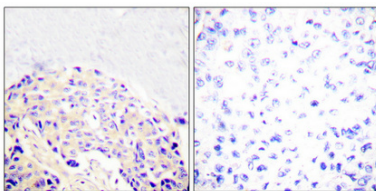
EGF 200 ng/ml 30分処理した COS7 細胞ライセートの PLCG1 (リン酸化 Tyr771) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 PLC γ 1 (Y771) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。